

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 仕入実績

当第3四半期連結会計期間の仕入実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年5月1日 至 平成21年7月31日)	前年同期比 (%)
旅行事業 (百万円)	53,716	—
ホテル事業 (百万円)	220	—
その他の事業 (百万円)	—	—
合計 (百万円)	53,936	—

(注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2. 当社グループ(当社及び連結子会社、以下同じ。)は、生産形態をとっていないため、生産状況にかわって仕入状況について記載しております。

3. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当社グループは受注形態をとっていないため、該当事項はありません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年5月1日 至 平成21年7月31日)	前年同期比 (%)
旅行事業 (百万円)	65,529	—
ホテル事業 (百万円)	331	—
その他の事業 (百万円)	6	—
合計 (百万円)	65,867	—

(注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2. 当社グループは、取扱高(販売価格)を売上高として計上しております。

3. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

2【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更があった事項は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

日本を含めた世界的な感染症の発生・蔓延

当社グループにおける事業の種類別売上高は旅行事業が99.4%を占めております。従って、日本を含めた世界的な感染症の発生・蔓延により、旅行需要の急激な減退があった場合は、当社グループの財政状態及び経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4 【財政状態及び経営成績の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間（平成21年5月から平成21年7月まで）の国内経済は、昨秋の米国金融危機に端を発した世界経済の急速な景気後退により、輸出産業を中心に企業収益は大幅に減少し、その影響は雇用情勢の悪化や個人消費の落ち込みへと広がり、大変厳しい状況で推移いたしました。

旅行業界を取り巻く環境は、今年春先以降の燃油特別付加運賃の大幅な下落さらには廃止、円高基調の継続といった海外旅行にとっての追い風がありましたものの、低迷する景況感に加えて、4月下旬から感染者数が増大した新型インフルエンザの影響が、結果として海外旅行需要を大きく減退させる要因となりました。日本政府観光局（JNTO）による平成21年5月から平成21年7月にかけての日本人出国者数（推計値）は、前年同期比約14.1%減（約54万6千人減）の約332万6千人と依然として減少傾向が続いております。

このような状況のもと、当社グループは主力セグメントであります旅行事業におきまして、少しでも多くのお客様に海外旅行を楽しんでいただけるよう、当期間も積極的な広告・営業展開を行いました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のようになっております。

販売面では、多くの航空会社が4月以降出発の燃油特別付加運賃の大幅な減額を発表したことを受け、5月には初夏のご旅行のお得感を明確に打ち出した「H. I. S. スーパーバザール」を実施いたしました。また、今年が『Ciao（チャオ）』（当社の主力パッケージツアーブランド）の発売開始20周年であり、『impresso（インプレッソ）』（当社の添乗員同行パッケージツアーブランド）の発売開始10周年でもありますので、7月にはそれを記念した「H. I. S. 『Ciao20周年』 & 『impresso10周年』 記念セールFINAL」を行いました。この他にも創意を凝らした各種販売促進を図りました。

商品面では、『いい旅研究室』（お客様の“いい旅”を実現するために平成20年4月に設置）の活動プロジェクトとして、『いい旅トルコ 10日間』（添乗員同行パッケージツアー）を、『impresso（インプレッソ）』と共同で企画し、発表いたしました。この『いい旅トルコ 10日間』には、これまでに『impresso（インプレッソ）』の各種トルコツアーにご参加いただいたお客様からのアンケートを基にして、『いい旅研究室』が「お客様の声」をツアーにできるだけ取り入れ、ご要望の多い「ゆとり」とご好評の「トルコの名物体験」にこだわったツアー商品とし、他の商品との違いを際立たせたものになっています。

海外のネットワークについては、海外店舗網の拡充に加え、現地在住の方を対象とした旅行手配業務についても、既取扱店の営業強化はもちろんのこと、新規の取扱店（インドのデリー等）を設けるなど、一層のグローバル化を展開しております。

この他にも、インターネットを利用した旅行サービスの拡充に引き続き力を注ぎ、インターネットとモバイルを連携させた新サービス『旅ナビ』をスタートいたしました。このサービスにより、当社の専用パソコンサイトからダウンロードした旅行先の観光スポットや地図などの情報を携帯電話で持ち出し、現地で手軽に利用することができます。

以上のような各種施策を展開いたしました結果、当社グループは、日本人出国者数に占めるシェアを前年第3四半期連結会計期間の14.2%から17.5%（推計値）へと大きく引き上げることができました。しかしながら、4月下旬から感染者数が増大した新型インフルエンザや燃油特別付加運賃の大幅な減額などが影響した結果、当第3四半期連結会計期間（3ヶ月）における旅行事業は、売上高655億29百万円となりました。

ホテルを運営しているオーストラリアでは、世界的な景気後退に伴い、ゴールドコースト及びブリスベン両ホテルともに客室稼働率の低下が見られ、当初の計画目標には及びませんでした。加えて、業績を日本円で評価する際の為替相場が円高傾向にあることも影響した結果、当第3四半期連結会計期間（3ヶ月）におけるホテル事業は、売上高3億39百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は上述のとおりであり、当社グループ全体の当第3四半期連結会計期間の業績は、売上高658億67百万円、営業損失4億93百万円、経常損失10億85百万円、四半期純損失6億98百万円となりました。

また、所在地別セグメントの業績は、次のとおりであります。

①日本

当第3四半期連結会計期間は、低迷する景況感に加えて、4月下旬から感染者数が増大した新型インフルエンザの影響が、結果として海外旅行需要を大きく減退させる要因となり、日本人出国者数（推計値）は、前年同期比約14.1%減少いたしました。このように大変厳しい事業環境の中、当社グループにおきましては、燃油特別付加運賃の大幅な減額や円高基調の継続といった海外旅行のメリットを最大限に打ち出した各種販売促進を積極的に展開いたしました。しかしながら、新型インフルエンザの発生に加え、旅行会社間の一層の価格競争などが影響した結果、売上高は599億46百万円となりました。

なお、当第3四半期期首より、株式会社欧州エクスプレスを連結の範囲に加えております。

②アメリカ

当第3四半期連結会計期間におけるビーチ方面（ハワイ・グアム・サイパン）は、日本からのレジャー需要増加から堅調に推移いたしました。一方、アメリカ本土方面は、日本からの受客数減少の影響を大きく受けました。現地在住の方を対象とした旅行手配業務も世界的に低迷する景況感の影響を大きく受け、集客が伸び悩んだ結果、売上高は51億70百万円となりました。

③アジア・オセアニア

当第3四半期連結会計期間におけるアジア方面は、韓国・台湾など近距離を中心に日本からの受客数が増加し、好調に推移いたしました。一方、オーストラリアを中心とするオセアニア方面は、航空会社のフライト減便の影響を大きく受けました。オーストラリアにおけるホテル事業も、世界的な景気後退に伴い、ゴールドコースト及びブリスベン両ホテルともに客室稼働率の低下が見られ、当初の計画目標には及びませんでした。アジア方面の受客数増加が全体を牽引した結果、売上高は51億73百万円となりました。

④ヨーロッパ

当第3四半期連結会計期間におけるヨーロッパ方面は、ロンドン・パリなど円高傾向が寄与した地域におきましては、日本からの受客数は増加いたしました。また、一部の拠点による現地在住の方を対象とした旅行手配業務は世界的に低迷する景況感の影響を受けましたが、全般的に集客は堅調に推移いたしました。しかしながら、業績を日本円で評価する際の為替相場の円高傾向が大きく影響した結果、売上高は17億97百万円となりました。

なお、金額はセグメント間取引を含めております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、第2四半期連結会計期間末に比べ85億17百万円増加し、484億50百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により資金は66億38百万円の増加となりました。

主に、旅行前受金の受取増加（135億9百万円）により資金が増加し、一方で、旅行前払金の支払増加（40億64百万円）、仕入債務の減少（33億8百万円）により資金が減少したことによります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により資金は14億35百万円の増加となりました。

主に、定期預金の払戻による収入（21億41百万円）により資金が増加し、一方で、有形及び無形固定資産の取得による支出（5億13百万円）、定期預金の預入による支出（5億9百万円）により資金が減少したことによります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により資金は18百万円の減少となりました。

主に、長期借入金の返済による支出（11百万円）により資金が減少したことによります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。